

# 北海道の新たな自治を展望して 市長経験者が語る自治の課題

小川公人 元江別市長

親松貞義 元赤平市長

桜庭康喜 元名寄市長

鳥越忠行 元苫小牧市長

〈司会〉佐藤克廣 北海学園大学法学部教授  
当研究所理事長

## 座談会にあたって

佐藤 本日は皆さんお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。以前、当研究所では道内自治体の制度、政策や出来事を記録として残す、当事者のオーラルヒストリーが必要という議論があり、そこに桜庭さんから今後の道政、市町村の自治について、皆さんから市長経験に基づいた話を伺ったらどうかという提案がありました。それを受けて、急遽集まっていたきました。今日は、市長時代の思い出や、今後の道政、市町村自治に期待することなどお話ししていただければと思います。

まず最初に、皆さんからこれまでの市長経験で思い出に残っていることですか、力を入れたこと、苦労したことを一通りお話しいただきます。次に、現在の市町村自治とか道政の現状をどう捉えるかということについて、いろいろと苦言提言があるかと思いますが、それをお話していただければと思います。

三番目には、今後の北海道をどういう方向に進めて行くのが良いのかについて、ご議論いただければと思います。最初にこの提案をされた桜庭さんからお話をいただくと、ほかの皆さんも話をしやすいと思いますので、お願いします。

## 1 これまでの市長経験から

### 自衛隊について議会で追求される

桜庭 言い出しつべとして最年少なんですけども、私から口火をきらしていただきます。これまでの市長の経験で、最も印象に残っていることは、自衛隊をどうするかということでした。名寄市は日本最北の陸上自衛隊の駐屯地があり、有権者の二割は自衛隊員とその家族です。私が市長に当選したときには自衛隊OB議員が四名おりまして、議会が始まると「カラスの鳴かない日はあつても、自衛隊に対する私の考えを聞く質問のない日はない」というくらい、自衛隊問題の質問を受けました。私はその時、自衛隊員も名寄市で生活している市民ですから、行政の長は、個人の思想とは違う対応をしなければならぬと主張しました。自衛隊をどうするかは、一市長ができることなく、国の政治に委ねるべきであつて、名寄市で生活している隊員と家族が毎日安心して過ごせる名寄市をつくっていくことが首長の責任だ、と分かったような分からないようなことを言って、議論をしてみました。

それでもお前は反自衛隊とか、反自衛隊闘争の先頭に立って駐屯地の看板を蹴つ飛ばしたではないかと言われ、悩み苦しみ議論してきたことが印象に残っています。

東京へ出張したときに、時間があつたら必ず防衛庁に行き、陸上幕僚長に面会を求めました。防衛庁は堅い役所ですから、陳情だと手順を踏まなければ、庁舎に入れてもらえない。そこで、名寄駐屯地はいわゆる防衛大学校一選抜（編集部注・同期の中で最も早く出世した人のこと）の人たちが司令として来るので、長ければ三年、大体一年半から二年で交代し、ほとんどが一度、課長クラスで防衛庁に戻るんです。

ですから、私のようなものが「陳情」と言つて防衛庁に行こうとしても誰も入れてくれませんが、陳情ではなく名寄駐屯地で司令をした人への表敬訪問だと言えはすんなり入れるんです。駐屯していた司令に表敬するのは数分で時候のあいさつをして、すぐにずかずかと陸上幕僚長のところを訪問する。駐屯地所在の市長の名刺を出す、むげに断れないので会つて四方山話をして、当時の陸上幕僚長は「あんたの自衛隊に対する考えは分かった。いそがしいのもう来なくてもいいか

ら、他の仕事をしてくれ」と言われるほどしつこく防衛庁に行ったことが強い印象に残っています。

### 市立病院新築と理不尽な職員給与削減提案

桜庭 最も力入れたと同時に、印象に残っていることの一つは市立病院の新築でした。私は市町村の基礎は、そこで生活をしている住民が安心して生きていける基盤を作るのが自治体の使命だと考えています。安心して住める基盤の第一は医療、第二に教育ということで、市立病院を改築をしていい病院をつくることに取り組みました。

当時の市立病院は築四〇年前後の古い病棟で、公営企業債を発行してお金を借りて改築したいと自治省に頼みましたが、当時名寄市は財政健全化対策に取り組んでいる最中だったんです。そういう状況ですから、自治省の公営企業局長に「無理なことを言うな、お金を借りるには、自治体の財政をよくしてから来るのが当たり前ではないか」と言われました。

実行するから、公営企業債を認めてほしい」と頼みました。七〇億円の企業債だったと思います。公営企業局長は横を向いて「市長がそんなに借金をしてまで病院を改築したいのなら、職員給料を一号俸下げることができるのなら話は別だ」と言われました。自治省の幹部クラスは、市町村長のことをしっかり調べ上げていて、私は自治省に押されて市長になったことを知っているので、給料一号俸ダウンはできないと思つていました。

私は局長に「職員給与を下げたら、お金を貸してくれるということですね。武士に二言はないですね」と確認したところ「市長がそこまで市民のためを思つて職員給料を一号俸下げるのであれば話は別だ」と言われました。東京から戻つてきてすぐに名寄市職労に職員給与一号俸ダウンを提案しました。これは私の提案そのものが非常に理屈に合わないことですから、組合は怒つて当たり前です。

三日も四日も団体交渉をして、しんどい思いをしましたけれど、私は「仮に一号俸の間の差額が三〇〇〇円から五〇〇〇円だとしても、年間の引き下げ額は五、六万円でしょう。だから、一号俸ダウンしても職員の家族は路頭に迷わないし、それで市民の命が救えるのだから、何とか曲げて理解をしてほしい」と言っていることは理屈に合わないことであることは私自身が認めるので、何とか理解してほしいと頼むばかりでした。最終的には、私を推薦して市長にしたこともあつて、し



桜庭康喜(さくらば やすき)

1942年名寄市生まれ。民間企業を経て63年名寄市役所勤務。66年名寄市職員労働組合書記長。71年名寄市議会議員に出馬、初当選。1983年同市市議会副議長。同市市議会議員を4期務める。1986年名寄市長選挙に出馬し、初当選。名寄市長を3期務める。96年から北・北海道国際交流協会代表。2008年～2018年北海道地方自治研究所理事。

私はそれを百も承知で「病院の老朽化は大変な状況なんで、病院を新たに改築しなければ一日何人もの市民が死んでいく。それを見ていられない。だから健全化計画はきちんと

ぶしぶ組合としては認めてくれた。

そのとき私は「表面的な一号ダウンでは自治省は調べて企業債を認めてくれないので、私が在職中に復元することはできないと思う。組合員の生涯賃金から言えば職員一人あたり三〇〇万円くらいのマイナスになるかもしれないけど、それは勘弁してほしい」と話しました。組合は何とか受け入れてくれて、新しい病院を作ることができた。病院の建て替えは自衛隊問題の次に印象に残っていることです。

### 名寄女子短大に念願の看護学科設置

**桜庭** もう一つは、一九六〇（昭和三五）年に開学した家政科の市立名寄女子短期大学です。大学をつくる目的は、当時の池田市長の発想で、栄養士、保健師、看護師を養成する大学を作りたい考え方だった。しかし、それには莫大なお金が必要で、政治家たる市長に短期大学という名前を取らせて、そして実として家政科の学科を作ってスタートしたのです。

私の同級生が第一期生なので、開学から男女共学なら私も名寄短大へ行っただけなんです。女子短大だったので札幌に出ました。

職員の時も、議員になってからも大学に関心を持っていましたし、開学を目指したときの原点である看護学科を設置するために大変苦勞しました。一人の教員も決まらず、当時の文部省や厚生

省から設置を認められる可能性も見えないなかで、乱暴にも看護学科の校舎を建築することにしました。その時はキザな言い方ですが、もし認められなかったら市長を辞める覚悟で、上着の内ポケットに辞表を入れていました。

幸いにも異例と言われるかたちで短大ながら、三年制の看護学科が認められました。後に看護学科で学んだ学生に申し訳なく、気の毒だったと思うのは、四年間で学ぶことを三年間で学ぶので、学生達に自由な時間は全くなく、勉強と実習に明け暮れ、本当にきつい状況だったと思います。現在は四年制大学の看護学科になっています。

以上、少し長くなりましたけども私の経験を述べさせて貰いました。

**佐藤** ありがとうございます。さまざまなか苦労があつて、それを乗り越えてこられたことがよくわかりました。自衛隊は、北海道弁で言うとかなり「いずい」問題であつたと思います。背に腹はかえられないと言うと傍観者の感想になつてしまうわけですが、原発問題にも共通する構造であると思われま。病院の新築も、革新系首長ならではの苦労と、逆に言えば労組の支持を受けた首長でなければなしえなかつたものであつたかもしれないとの感想を持ちました。一方、看護学科の新設は前向きな施策でやりがいがあつたのではないかと思ひます。

それでは続きまして親松さんお願いいたします。

### 産炭地赤平の閉山対策 働く場をつくるため全国奔走

**親松** 私は一九八七（昭和六二）年から二〇〇三（平成一五）年まで四期、赤平市長を務めました。赤平をはじめ北海道には多くの炭鉱がありました。道内で大手企業経営による最後の閉山は、一九九四（平成六）年の住友赤平炭鉱で、赤平市は炭鉱のまち産炭地としてあゆんできた特徴があります。

炭鉱が閉山するということは、まちの経済、雇用をはじめ、あらゆる面で大きな影響を受けます。私は市長に就任した当時から「石炭のヤマをできるだけ長く存続させたい。一年でも長く」ということで、当時の住友石炭炭鉱と何度も話をしてきました。当時空知管内の五市一町で「空知産炭地域総合開発機構」をつくり、夕張の中田市長が会長、私が副会長をして、産炭地振興と閉山対策の協議や行動が年から年中数多くあり、道や国への要請活動なども頻繁に行っていました。

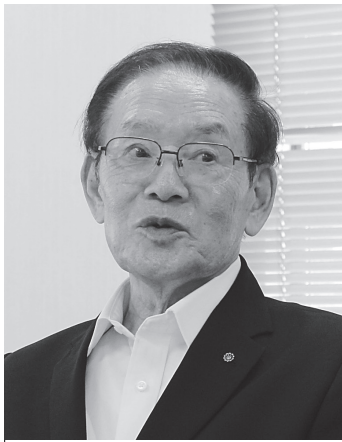
就任以来、いずれ炭鉱は閉山する。それは避けられないことだと思ひながらも、炭鉱が閉山すると数千人の雇用の場がなくなり、地域経済に大きな影響を与えるので、できるだけ影響を小さくするためにどうしたらいいかと、苦悩しながら取り組んできました。雇用対策が最大の課題で、雇用の場をどうやって確保するか。そのことがまちの活性化にもつながりますので、全力を挙げてやっ

てきました。

新しい企業、雇用の場をつくるために、「一年一企業」と公約したんです。一年に一つは企業を絶対誘致すると約束したのですが、できなければ市民から大変な批判を受けます。このため全国の企業や会社の動向をいろいろな面から、情報を集め把握する。そしていかに赤平に会社を作ってもらうか、雇用の場を作ってもらうか、会社に来てもらうかを努力しました。

企業誘致は担当職員に任せつきりではなく、私自身も率先して誘致の活動をしました。土日はほとんど地元にはいない状況がつづき、九州、四国、関西などあらゆる地域の企業を訪ね、一年一企業誘致は結果的に市長を辞めるまで完全に実行しました。

自治体担当者が企業誘致で訪問しても、大概は窓口の対応で終わりですよ。市長の私が出向き、担当者だけではなく幹部の人と会って、やがてトップの社長などと会う。私の熱意や思いを伝え



親松貞義 (おやまつ さだよし)

1935年赤平市生まれ。53年赤平市役所勤務。64、65、67年赤平市職員労働組合委員長。71年赤平市議会議員選挙に出馬し、初当選。75年同市市議会議員。同市市議会議員を2期務める。87年赤平市長選挙に3度目の挑戦で初当選。赤平市市長を4期務め、2003年勇退。

て、相手とのコミュニケーションを図る。

例えば、大王製紙のエリエールというティッシュペーパーやトイレットペーパーの家庭シェアは日本一です。ティッシュペーパーを運ぶコンテナは、空気を運ぶようなもので、北海道に持ってくるだけでコストがかかり、道内で生産した方が物流のコスト減になる。しかも原材料の木材はほとんどがカナダですから、道民が使うものは道内で作るのが合理的だと、社のトップとやりとりをして説得し、赤平に大王製紙の工場ができ、二五〇名くらいの雇用につながった。産炭地の雇用対策は最大の課題との思いで取り組んできました。

結果的に住友赤平炭鉱は閉山しましたが、ほかの産炭地でも同じように閉山したら炭鉱の施設は跡形もなくなります。市民は、赤平のまちととも歩んできた住友炭鉱のかたちをなんとか残してほしいと願っていました。住友赤平炭鉱の立坑やぐらが赤平のシンボリックな炭鉱施設として残すことができた。

の場をつくるための企業の誘致に懸命に取り組みました。

### 市立病院の改築と苦しい財政運営 市長交代の難しさ

親松 桜庭さんが言ったように、医療は市民の生命に関わる大事なことで、市立赤平病院は重要な医療機関ですが、病院施設は老朽化して雨漏りがし、さらに医師不足に悩んでいました。このため、市長二期目にときに、市立病院を建て替え、医師確保に努力しました。任期中の大きな仕事でした。

苦勞していたこととして、財政問題がありました。人口減が追い打ちをかけるような状況で、どの市町村も財政では苦勞していたと思います。

私は四期で市長を辞めました。職を辞するいうことは大変なことなんです。実は三期で辞めつもりだったのですが、住友赤平炭鉱の閉山対策という大きな課題があつて市長をつづけてほしいと多くの声があり、四期目もつづけました。

四期で辞めると決断したのですが、つづけてほしいとか、辞めるなら俺がでるなどと様々な声が出てきて、難しい状況になりました。このままでは、辞められないと思ひ、記者会見で四期で辞めることを表明しました。

その後、私は誰が後継者だとも言わなかったの、すこし混乱したようで、三人が立候補して選

閉山対策として、住友との関係から、四国香川県にある食品製造の「加ト吉」を誘致することができました。ほかにも住友が二、三の企業を誘致してくれました。このように、炭鉱の閉山対策、雇用



鳥越忠行(とりこし ただゆき)

1939年苦小牧市生まれ。58年苦小牧市役所勤務。68年苦小牧市職員労働組合委員長。75年苦小牧市議会議員選挙に出馬、初当選。同市市議会議員を2期務める。87年苦小牧市長選挙に2度目の挑戦で現職を破り初当選。苦小牧市長を4期務める。

拳になりました。いま振り返っても苦勞したと思つています。

**佐藤** ありがとうございます。炭鉱閉山のインパクトを弱める企業誘致のご努力は並大抵のものではなかったのですね。一方、病院の改築は、先ほどの桜庭さんと同様たいへんな苦勞があったのではないかと拝察いたします。続きまして鳥越さんお願いいたします。

**鳥越** 私は一九八七（昭和六二）年から四期一六年、苦小牧市長を務め、在任中は、国や道の政策・プロジェクトに振り回されたというのが率直な感想で、千歳川放水路問題はその一例です。横路孝弘知事のときは、千歳空港の滑走路延長と二四時間運用の国際エアカーゴ基地構想がありました。深夜、早朝に飛行機の離発着については、航路直下の住民生活を配慮して実施していなかった

のですが、国際貨物便を飛ばしたいので、深夜便の発着を受け入れてほしいと要請がありました。

千歳川放水路計画は、きれいな水を流すのではなく、石狩川流域の洪水を防ぐために、石狩川に流れている千歳川の水をせき止め、洪水のときに太平洋側の苦小牧に流す計画だから、汚れた水を流すことになる。こんな計画を漁師は反対だし、環境面でも問題がある。私は漁師の息子です。国が計画を推しすすめようとしても、簡単にイエスとは言えない。結局、放水路計画は中止になりましたが、石狩川流域の洪水対策は大きな課題なので、周辺首長さんたちの悩みも分かります。

### 地元経済界の批判に應える 組合との交渉に苦勞

**鳥越** 社会党推薦の市長だったので、革新市長は経済政策ができない、と地元経済界から批判されました。僕は景気対策というか、まちの賑わい作りのために知恵を絞ったり、いろいろな人と話し助言を得るなどして、政策を練りました。その一つとして、市民の持ち家政策を推進するため、地元信用金庫とタイアップして低金利の融資制度

をつくってもらい、市が後で利子補填する。市には固定資産税が入りますし、地元の建築会社も仕事が増える。これによって地元の経済界も僕に対する見方が変わったのではないかと思います。

労働組合の応援を得て市長になりましたが、桜庭さんが触れたように、市長になってから労働組合の対応は苦勞しました。

組合との団体交渉は助役や総務部長が正面にでて、私は後に控えているのですが、組合と理事者の板挟みになって、どっちつかずの態度になり、決断力がない、何のために団体交渉をしているのかとなってしまふ。

市職労は、組合が応援して当選させた市長だから、無理押しはしないだろうと思つているし、助役も「きつとそういうことなんだろうから」と思つて、団体交渉に力が入らない。でも、俺は組合に対して提案をした以上は何が何でも通さないとダメなんだから、と助役にハツパを掛けてばっかりいましたけど。本当は大変でした。

**佐藤** ありがとうございます。苦小牧市は、道内では比較的伸びのある自治体だと思いますが、それだけに環境維持の課題に直面されたということですね。景気対策や「組合対策」という革新系首長ならではの苦勞話はどうやら共通するところがあるようですね。

それでは小川さんお願いいたします。

## 政治に関わって半世紀 無欲の市長選勝利

小川 一九七一（昭和四六）年に市議会議員選挙に出てから今日までで四八年、半世紀近く経ちました。市長選挙は一九九五（平成七）年なので、それから二四年、ほぼ四分の一世紀になり、市長を辞めてからでも一二年経ちます。政治の世界に飛び込んで今日に至っていることを考えると、浦島太郎のような気分という実感です。

親父は二〜三町歩の畠を耕していましたが、後を継ぐほどでもないのに、「市役所職員の試験に落ちたら、お前は農業をやれ」と言われました。とはいっても、とても食えない規模でした。それでも、なんとか市役所に入ることができました。市職員になって一一年後、市議会議員選挙に出され、その後、向こう見ずに市長選挙に出ました。最初は、向こう見ずに市長選挙に出ました。最初、市議会選に出たのは、当時の市職労委員長に江別市内の旅館に缶詰にされ、三日三晩、市議



小川公人（おがわ きみと）

1941年江別市生まれ。60年江別市役所勤務。71年江別市議会議員選挙に出馬し、初当選。以来、同市市議会議員を6期務める。95年江別市長選挙に出馬、現職を破り初当選。江別市長を3期務め、2007年勇退。

を「やれ」と言われつづけ、開き直って決断し、女房も説得してくれると思っていたら、「妻はおまえが説得しろ」と言われ、そういうことが通用した時代でした。

これまで市長は、革新系で当選したことはなく、当時現職の岡英雄市長は市職員たき上げで、自治大学校を卒業し、仕事の能力といい、行動力といい、誰も太刀打ちできないなか、四期目の選挙も無風になると見られていました。私は市長候補の党選考委員会委員長で、革新系の候補者を二人に絞り込みましたが、一人には直ぐ断られてしまいました。もう一人、自治労組織内に目を向け、私が市長選挙の参謀をするからと説得しましたが、いまの市長とは闘いたくない、どう見ても九分九厘勝ち目はないと断られ、私も勝つのは難しいかなと思っていました。

結局、選考委員長の私が責任をとるかたちで市長選に立候補しました。結果は、私が二万六五四八票、現職の岡市長が二万五二六票となり、一三二二票の僅差で私が当選しました。票差の半分は六六一票ですから、現職が私より六六二票多く取っていたら、私は落選していた。投票の日、NHKは私が落選すると思っていたので、結果が出る前

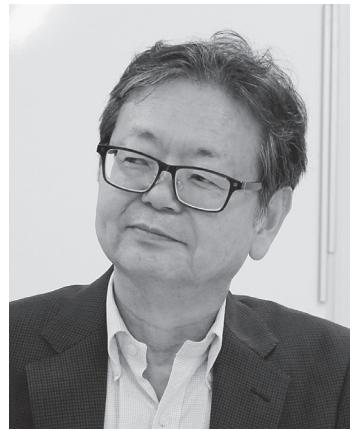
に選対責任者に「敗戦の弁」を求めて、後は現職の陣営に行ったので、選対や後援会にいた者は怒っていましたね。

NHKも私が勝つとは予測せず、無欲の勝利で、私自身も驚いた選挙でした。このときの市長選挙結果については、赤坂伸一・江別市議が北海道自治研究に二〇年目の市長選挙に勝利（一九九五・七）という報告をしています。

### 家庭ごみ有料化を決断、市民との対話を重視

小川 市長になってからは、さまざまな市の政策を理解してもらうため、市民との対話、市民と関係づくることに力をいれました。石狩管内ではどこも手がけていなかった、家庭ゴミの有料化を実施しました。

年々ごみの量が増えていたので、有料化を決断しました。しかし、市民にとっては無料だったので、有料になるので、実施すれば次の選挙は落選するとか、時期尚早だと言われましたが、試算すると有料化によって焼却ごみの量は三割減ることが見込まれました。料金は低く抑え、三割ゴミが減量化することを市民に理解してもらうため、市内全地区でタウンミーティングを行いました。市民の理解を得て有料化を行い、ゴミの量が三割減って、焼却炉への負荷も減り、良かったなあとほっとしました。



〈司会〉佐藤克廣  
北海学園大学法学部教授  
当研究所理事長

市民との関係の一つとして、「広報えべつ」に毎月、四〇〇字詰め原稿用紙一枚に、折りに触れて感じたことを書きました。こればかりはほかの人に頼むわけにいきませんし、ようやく書いたと思つたら、次の号の催促がきて、短い原稿であっても、毎月書くのに四苦八苦していました。

一〇年間書きましたが、市民はよく見ていて、あるとき日本に女性天皇は何人いたと書いたら、それは何代と数えるか、何人と数えるかで異なる、と市民から指摘されました。詳しい人がいるんだなど関心し、また広報を読んでいくるので、毎月市民へ向けて書くのは、大切なことだと実感しました。

黒塗りの市長公用車は廃止して、職員と共用して使うことができるハイブリッド車にしました。行事や仕事で夜に公用車を使うことはありませんが、一二年の在任中、一〇年くらいは自宅から市役所まで四五分ほどかけて徒歩で通いました。最初のころは、車で通りかかった市民が、車に乗ること

をすすめてくれましたが、健康のために歩いていからと断りつづけると、乗車をすすめられないようになりました。道すがら、まちの状況をみたり、市民と触れることが大切だと思つたからです。このように、市民との対話、市民との関係をつくること重視してきました。

### 鉄道高架化や市立病院運営の難題に直面

小川 江別市は東西にJR函館本線が通り、千歳川以西では江別、高砂、野幌、大麻と四つの駅があり、鉄道が市街地を南北に分断していました。朝夕の通勤通学時は踏切で交通渋滞が起き、かつ危険のため、鉄道高架は長年の懸案で、前職から引き継いだ大きな課題でした。選挙の度に争点になりましたが、事業は具体化していませんでした。しかし、私が市長のときに決断して目処をつけなると、この先も鉄道がまちを分断しかねないと思えました。

鉄道高架事業を行うため、何度も国交省に出かけ交渉しました。地元負担が二〇〇億円強と過大である、と言うと国交省はあきれていましたが、市の負担を可能な限り押さえて、一二〇億円弱くらいになりましたが、在職中にほぼ、高架化に目処を立てることができました。

一九九八年に私の手で江別市立病院を建て替えましたが、病院の経営には苦勞しました。病院長は市長が任命することになっていますが、大学医

局内科の意向により内科医師を院長にすることが慣例になっていました。私は現職院長に課題があつたため、後任の院長に同じ大学医局外科の医師から内諾を得て交替させようとしていたのですが、いろいろ行き違いが生じて、結果的に内科医七人が全員辞めてしまいました。私は東京に本部がある自治医科大学に日替わりの医師派遣をお願いしたり、医師確保に奔走し苦勞しました。私の見通しが甘かつたと反省しましたし、議会では問責決議が出されましたが、可決されることはなく、決着をみました。

その後も病院の問題は尾を引き、私のあとの市長も病院問題で苦勞しています。

佐藤 ありがとうございます。家庭ゴミの有料化は、今では一般的ですが、始める際には苦勞があつたと拝察します。また、毎月の広報紙に市長自ら筆をとつて所感を書き掲載することは、多くの首長さんに見習つてほしいものです。病院問題は、他の市長さんとはちよつと違つたご苦勞があつたのですね。

皆さん同じような時期に市長になられていて、共通していると感じたのは、革新市長といえますか、社会党推薦の市長なので「仕事はできないだろう」と思われてきたことに対して、発奮して頑張られたのだと思います。そして革新系ということでの苦勞があつたと思います。

ところで、苦勞するのは目に見えていたと思うのですが、皆さんは、そもそもどんなお気持ちで

市長になろうと思われたのでしょうか。

## なぜ、市長に立候補したのか

**桜庭** 私は、市職員、市議会議員、市長と行政、政治に関わる人生を歩んできましたが、職員そして議員のときに市長の姿を見ていて、これは大変な仕事だなと思っていたので、実は市長になりましたという気持ちを持ったことはなかった。

がんがん発言して相手を攻めるのは得意だけど、守ることに全く自信がなかった。市長の仕事は、議会での質問を受けたり、市民の声を聞いたり、どちらかといえば守りの姿勢という立場なので、やってみたいという気持ちはなかった。

しかし、たまたまある先輩を市長選挙に出そうとして失敗をし、このままでは無投票になるかもしれないとなったわけさ。私は候補を出す中心になって活動していたので、変な言い方だけど、無投票を避けるためにやらせてほしいと頼みました。若気の至りですが、「俺の葬式を出してくれ」と当時の市職労委員長や社会党名寄総支部長に言い、一切条件はつけないので、とにかく無投票だけは避けるために立候補して選挙をし、市民の判断を得る。それが私の葬式になるかもしれないけど、と頼んだのです。

実は、名寄市長選挙から八カ月後に市議会議員選挙が予定されていました。市長選挙で落選しても、もう一度市議会議員させてくださいと立候補

したら、最下位でも当選できる確信がありました。これも若気の至りで生意気なことなんですけど。八カ月浪人して議員に戻れるという気持ちも正直ありました。

**鳥越** 市長になった一九八七年の統一選は横路知事が二期目を目指すときで、ブームのような雰囲気があつて、市職労の若い組合員は張り切っていたね。おだてられて市長に立候補しようなのだけ。

**親松** 私も、似たようなところはありますね。組合員のころは、衆議院選挙区は旧四区（空知・胆振・日高管内）だったから、選挙区内の組織内市議の応援に行つたね。室蘭、苫小牧、夕張など、市は全部歩いて市議候補や道議候補を応援したね。そうこうするうちに自分にお鉢が回つてきちゃつた。

**小川** ちよつと違う角度から話をしますとね、当時の江別くらの規模でも、組織内市議を二人擁立するというのは難題でしたが、わたしの票は職員だけ固めれば当選する。そんなことで、一期目は、トップ当選したんですよ。ところが、私が市議四期目のときも、当時の市職労委員長は、市職組合員の票を固めれば当選すると、一期目・二期目の時と同じ挨拶したので私は愕然としました。

一期目は確かにトップ当選したのですが、複数の候補を立てなければ組織に力はつかないので、次の選挙も組織内候補は私一人だったら、選挙に出ない！と開き直りました。選挙まで三カ月ほど

しかありませんでしたが、市職労は真剣に議論し、今年で議員を辞めた赤坂伸一さんを説得して、彼も立候補しました。私の基盤の票の約六割近くを赤坂候補に割り振り、私自身当選するか不安もありましたが、二人とも当選し、私の得票数は一人のときの票を上回りました。大変ですが、競わないうと支持してくれる票は減っていきます。生活もあるので精神論のみでは通用しません。

**佐藤** それぞれに若干事情は異なるようですが、とにかく選挙を戦わなければならないのだという意気込みは共通していらしたようですね。そうした勢いが近年の革新系には残っていないのかもしれない。周りの状況がそうさせている面も多々あると思いますが。

## 2 いまの市町村自治・道政の現状をどうみるか

**佐藤** 次に、二つ目のテーマとして、いまの市町村、道政の現状について皆さんに伺います。関連して、議員のなり手不足が全国でも言われていますし、道議会のあり方についてもご意見があれば伺いたいと思います。小川さんからお願います。

### 2019年統一地方選から見えた課題

**小川** 今回の江別市長選挙では模範的な行動とは言えない、向こう見ずな行動を取りました。民



主党そしているの立憲民主党は、三期一二年、現職市長を推していたのですが、私は告示当日、急きよ新人対立候補の応援にまわりました。

この候補は市議を一期で辞めて市長選に出馬し、孤軍奮闘している姿を見て、このままでは泡沫候補になりかねないし、知事選の上積みにもつながらないと思い、見るに見かねて告示から一週間、応援しました。得票は一万票に届くかどうかと思われていましたが、結果は二万票を超えました。候補本人には失礼ですが、当選は難しかったにしても、ここまで票をとれたのだから、大善戦の思いを残して選挙を終えました。

道内市町村の首長と議員のなり手がいないということは何とかしなければならぬ。三期一二年という、小学校一年生の子どもが一八歳で有権者になる長い期間です。現職の首長や議員がやり残していることがあるからと惰性でつづけるのは、現職に代わりうるなり手につながって行かないからです。若手の立候補しやすい環境をつくるのが大事なことで、その意味では今回は新人候補を応援したのです。

なり手不足の問題は、政党はもちろん、労働組合にとっても大きな課題で、本気になって対応することが必要です。立候補しやすい環境をつくる目的意識が求められます。

**鳥越** 私は政党の責任だと思う。苫小牧市議会議員選挙は定数二八に対し、三一人の立候補で、出る人が少なくなってきた。失礼になるけど、

議員の資質の問題もあるね。それにある程度の議員報酬があるので、まちの将来を考えるとといった基本を考えるよりも、就職のため議員になつていける雰囲気があるのじゃないかな。個人的な見方もしないけど。やっぱり政党の責任だと思う。

**小川** 私は大学にいついていないので、専門的なことは勉強していないけど、地方自治法や地方財政といった基礎的な知識がなく首長や議員になると、底が浅かったり、うわべだけに見える。

地方政治、自治を担う人材を育て、基礎的なことを学ぶことができる場が必要で、アカデミックな面から政治家を育てる。このままだと、政治家は議員秘書か、労組幹部経験者ばかりになります。それが悪いとはいませんが、自治を担う議員を育てていく環境をつくらないと見通しはしんどい。

**鳥越** 多少質が悪くても、出る人が多ければ、競い合つてそれなりに質が高まっていく。出る人が少ないのが一番の問題だね。かつては政党と労働組合が競い合っていたし、国労、全通、全電通そして自治労と官公労の労働組合も多かった。いまは市労連が苫小牧市内で最大労組だから、ここが候補者をもつと出さなければ、いわゆる革新系議員の勢力は弱くなる。

**佐藤** 親松さんはどうですか。

**親松** いまの状況は私たちも深刻に捉えなければならぬと思うんですよ。国政と地方政治の場合はやや異なるでしょうが、日常の人々の生活の中で政治に対する関心が薄れている。自分のところ

のまちづくりとか、道政、政治への関心が弱くなっている。人々が関心を持つためには、学校の場で、国政、都道府県政、市町村の自治や政治を子ども達が学び、考えることが大事ではないか。文科省は何か言ってくるかもしれないけど。

政治への関心がなくなつてくると、民主主義が危うくなる。危うくなれば、特定の人の言動や力で政治や物事が動いていくことに繋がる。

国民の意識の変化をどう捉えていくかということと、政党や労働組合の力がかつてより弱くなつているのであれば、付け焼き刃なことではだめではないのか。私たちは真剣に考えて、国のこと、北海道のこと、市町村のこと、これからのまちづくりのことを、議論できる環境、場をつくる必要があると思う。

**佐藤** ありがとうございます。桜庭さんはどう思いますか。

**桜庭** 私は市町村議会議員、道議会議員を見ていて、危機感がなく、そして夢がないと感じています。これがいまの政治状況にしている要因だという気がしています。

**鳥越**さん、小川さんが言うように、一つは政党の責任があります。政党がこうした北海道にしたい、地域の政党が名寄市をこうしたいとビジョンを示し、有権者、市民の参加を得て議論するということがない。

市町村の地域政党を担っているのは議員だと思いますが、その議員が住民に対して地域の夢や、

自治体の危機感を提起できないところに問題があるのでは…。

平成合併のとき、全国三一二五市区町村を訪問し、その中で幾人かの県議会議員とも会いました。会った県議会議員たちは、私が知事だったらこういふ県になるとみんな堂々と言うのです。ところが、ビジョンの内容は別として、身近な道議会議員からそういうことを聞いたことがあるだろうか。残念ながら、政治家としてのビジョン、考えを聞いたことがない。これでは道民に対して来いと言っても、来ない。道側から提案されことに、こぢんまり善い悪いと重箱の隅をほじくるような議論で、かたちだけで終わらせているように見える。

### 地方から議会・議員のあり方を提言する

**桜庭** 最近、納得できなかったのは、札幌市議会の議長の決め方です。臨時市議会で臨時議長になった松浦議員が、議長は慣例による互選で決めるのではなく、立候補制による議長選出を宣言した。議会が空転した時間はちよつと長すぎたけど、臨時議長の言ったことは間違っていないと思うのさ。慣例だとか、申し合わせだからと、市民の関知しない水面下のことなんだよ。市民の知らないところで議長を決め、かたちだけの投票をしている。そうした慣例ではなく、議長になりたい人が立候補して正々堂々と所信表明をして投票する、という臨時議長の提案のほうが正論だよ。

**小川** 松浦議員の行動はこれまでいろいろ問題があつたにしても、今回のことで議員資格を剥奪し、除名までするのはいかがなものか。

**桜庭** 今回のことを見ても、議員は小ぶりになつたなと思う。

それから、市町村議員が議員報酬で食べていくプロ化にするのか、それともあくまで地域のボランティア的な議員にするのかの選択をする時代になつたと思う。

若い人に、地域のために議員活動をしてもらうのであれば、食べていけなければ議員はできない。議員定数を減らして歳費を上げる方法も、一つの選択してはあると思う。でも最近の動向を見ると、人口減少を理由に議員定数を減らしても、歳費は上げない。ますます出る人がいなくなる。総務省に議員のなり手不足の課題を任せておくのではなく、地方が地方を守るために考え、提言していくことが必要だと思う。

もう一つ現実的なことで、私は議員年金を復活すべきだと思うんですよ。それだけの仕事をしてもらっているし、議員を辞めたあとに不安があれば、出る人は少なくなる気がします。

**小川** 私は、政党が真剣に問題意識として据えていないと思うのは、日本人の思想、イデオロギーとも関連すると思うのです。こうしたことを言うと、何か特殊な人のように思われますが、思想のない人などいません。たとえば欧米では地方政府という言葉を使うけど、ほとんどの日本人は、地

方政府の意識が低い。地方財政、自治体の財源は中央集権的に管理されているし、地方政府であれば、自治体もつと自由に使える財源が必要で、改めて全自治体が主張し、実現しなければならぬ。最近感心するのは、香港のデモが長期間つづいていることです。過激な行動を肯定しているのではなく、地域の民主主義のために、多くの市民が集まって、毅然とデモをしているすごさです。

こうしたことは、ほかの国のことと悠長なことを言っていれないと思う。安倍政権は、憲法改正して自衛隊を明記するなど好き勝手に憲法を変えようとしていて、国家権力をしぼるという立憲主義が危機ですよ。権力が暴走すると、個人の権利と基本的人権を無視、侵害し、独裁となり、戦争を起す、こうした過ちの教訓から憲法は立憲主義を捉えてきている。

そして憲法改正の国民的議論がないまま、国会で改正が発議されて、いきなり国民投票になるのはと心配しています。

**佐藤** ありがとうございます。自治のテーマは、当然国政にも及んできますが、ここで道政と市町村に焦点を絞って話しをすすめます。

### 3 これからの北海道と市町村に必要なこと

**佐藤** まず、これからの北海道と市町村のあり方について皆さんからお話を伺いたいと思います。

## 道庁の立ち位置をはつきりさせる

**親松** まあ、確実に少子高齢化がどんどんすすむと思うんですよ。このテーマの道と市町村のあり方というのは、なかなか切り離せないんですけど、道としての役割を定めてほしいですね。

また、わたしは、北海道の特徴的な課題は原発問題だと思っわけですね。今でも東日本大震災の福島第一原子力発電所爆発で飯館村など帰還困難なところがあちこちあります。あのことを見て、原発推進、電力を確保することは、人を殺したり莫大な被害が出るのがわかったはずなんです。原発問題は火山大国日本では絶対避けられない話です。だけど、これはね市町村というより国や道の問題で、市町村からというよりは、北海道において原発に固執してはいけないということをはつきりと打ち出さなければなりません。

ついでに言いますけど、北海道レベルで言えば、北海道の広い中で道南、道東、道北、道央これは特色はそれぞれありますので、この地域性にあった北海道づくりに市町村がどう関わるのか。市町村の連携、ブレイ、道南なら道南、道東なら道東というように、これをしっかりとお互いに公益性も議論して道にも申す時期にあると言えます。JRの問題も道レベルで考えなくてはいいけない。

IR（カジノを中心とする統合型リゾート）の問題もだね。僕は北海道のなかでIRが本当に必

要なのかどうか怪しいと思っています。韓国は酷い目にあっていますね。北海道のスパンで首長さんがしっかりと考えることが避けて通れないですよ。さらに言うと、北海道の山林だとか農業だとか、酪農なども含めて担い手不足。山林や水資源の涵養は重要です。土地を海外の人に売ってはいけないと思うんですよ。これあの他国に売った場合にそこがどういうことになるのか。責任はどういう風になるのか心配なんです。そういうことで、これに対して知事や道は、どう立ち向かうかですね。

### 首長・議員共に地域課題を学ぶべき

**鳥越** 鈴木直道知事がどのように道政を運営して、どんな北海道にしようとしているかよく分からないね。そして前知事の高橋はるみさんは、支庁改革で総合振興局と振興局に名前を変えたけど、四期一六年で何をしたのだろうか。

私は漁師の子どもだからよく言っていたのは、北海道は太平洋と日本海、オホーツク海があり、それぞれ捕れる魚が違うし、気候も違うということ。知事になる人は、こうした北海道の風土を知っていて、バイタリティーがなければだめだと思う。その点で、鈴木知事にスター性はあるんだろうけど、力強さ、道政を担っていく原動力みたいなものが感じられないけどね。

ほかの市町村のことはよく分からないけど、苦小牧市の産業状況や、市の財政力をみても道内の

なかでは恵まれている地域だと思う。ただ、さつきもふれたけど市議会の状況は活力がない、市長にお伺いを立ててるような質問ばかりで、これではだめだ。

**佐藤** 大きな問題がないと、日常的なことがつづくのは分かりますが、とくに問題になっていることはないのでしょうか。先ほどIR誘致の問題が出ていました。

**鳥越** 私が市長のときは、議員から質問がたくさんあり、口角泡を飛ばして議論したという感じで、議会の対応が大変だった。さつきも言ったように、苦東地域へのITER（国際熱核融合実験炉）は私よりも堀知事が一生懸命でしたが、共産党の議員はよく勉強していて、質問で攻められました。当時は苦東開発についての質問も多かったけど、いまはほとんどないしね。時代が変わった。親松 IR誘致をめぐる地元でいろいろ動きがあると思うけど。

**鳥越** IRについての議会の質問は、議員自身の考えはなく、ただ市長の考えを聞いているだけだね。地元では、IR誘致に反対する市民の会があるけど、ちよつと活動が弱い。報道機関の市民アンケートなどでは、六割以上の市民が誘致に反対している。市議会は誘致賛成派の議員が過半数を超えているので、このままだと誘致で押し切られるね（編集部注・鈴木知事は一月二九日の道議会でIR認定申請見送りを表明）。

## 自治労が提起する北海道のビジョンに期待

桜庭 やっぱり今後の北海道の夢づくりだと思  
うんだよ。どういふ北海道にする、したいのかを



もつと議論すべきなんだ。

たとえば原発の問題だって、いま泊原発は止まっ  
ているけど、苦勞しながらも道内の電力使用を賄っ  
ている。北海道という島で原発をなくすことがで  
きたら、日本で原発のない島は北海道と沖繩で、  
自然が豊富な土地という優位性を世界にも訴えら  
れる。こうした分かりやすい提起をすることが必  
要だよ。

知事と経済界は、北海道の発展はとにかく観光  
だといふ、観光に特化し過ぎていふ印象です。北  
海道が観光で経済的に豊かになった恩恵が名寄に  
あるのだろうか。皆無でないかもしれないけど、  
札幌近郊や観光地が中心ではないだろうか。

さまざまな数値が、北海道全体の積み上げてポ  
リウムが大きくなったと言われるけど、道民生  
活を冷静に考えると、観光事業をがんばることが  
いい北海道をつくることになるのだろうか。地味  
かもしれないけど、一次産業をはじめ生産、加工、  
製造で汗を流すことが基盤になると思っていますよ。

こうした提言のきっかけをつくるのは労働組合  
の自治労だと思ふ。道職員の組合の全道庁が、鈴  
木知事の言う北海道はこれでもいいのか、官邸の影  
響があるのではないか、道庁は国省庁の出先機関  
になりかねない、これではいつまでたっても北海  
道は独自のことができない、独自の政策が実行で  
きる道庁づくりをしよう、と提起できるのは全道  
庁です。

市町村の自治、まちづくりについても、市町村

の自治労の組合が住民に提起する、住民と連携し  
てまちづくりをすすめる、という姿勢を自治労が  
持てるのか。今後、これが最も大切なことになっ  
てくると思ふ。

### 候補より政策にウエイトを

小川 私も鳥越さんが言ったように、高橋道政  
一六年は何をしてきたのか、と言いたい。そして  
一六年間、知事野党の民主・道民連合は知事をど  
こまで追求してきたのか？そうした状況を許容し  
てきたのではないか、知事が困るほど追い込んで  
こなかったことが問題だったのではないかと言  
たいですね。

道議会議員が、次の知事選までの三年半をかけ  
て、知事候補を選ぶことは大事だけど、コンセン  
サスが得られる対立軸の明確な政策をつくること  
が肝心ではないのか。そういう状況をつくらな  
いと展望がみえない。

北海道は東北六県より広く、そして道は一つの  
島です。あえて支庁と言いますが、支庁長は副知  
事のような地位とか、支庁には予算執行の権限が  
あるとか、支庁独自の政策展開が可能となる仕組  
みが必要で、財源と権限、人を支庁に集中させて  
いかないとだめです。北海道は広いので、支庁ご  
とに独自の政策展開が可能になる余地があつても  
…。

それと道議会の民主・道民連合二七人のうち、

一〇人が札幌で、道議会定数一〇〇人のうち二八人が札幌です。もつと地方の議員が多いほうがいいと思うのですが、人口比による定数だからしょうがないのですが、政党派としてまとまる北海道全体の政策がないとね。

### 北海道独立の気概をもって大胆に発想する

**桜庭** 四月の知事選挙では、石川候補を名寄で一生涯懸命応援しました。選挙は負けましたが、石川候補が訴えた「北海道独立論」をベースにして、北海道の夢づくりをするべきだと思うよ。きつと石川さんだつてそれを望んでいる。知事候補がないなか、ギリギリ土壇場になって立候補を要請され、石川さんはよく頑張つたと思う。

北海道独立論は乱暴にみえるかもしれないけど、完全に北海道が独立するのではなく、そうした発想から将来の北海道を構想することが重要で、石川さんはそれを言いたかつたのだと思う。

なぜこうしたことを言うかというところ、全国の市町村を訪問してまとめた『消えたマチ生まれのマチ』のあとがきにも同様のことを書いたからで、石川さんが独立論を主張して、意を強くした。もし、北海道が独立国だつたら、どのような政策をつくるのかという発想を原点に議論し、北海道の将来を描く、総合計画を考える大胆さが必要だと思ふね。北海道は霞ヶ関の下請け機関ではなく、北海道政府という気概を持つてほしい。

一四支庁は総合振興局と振興局になつたけど、区域の見直しも含めて大胆な改革が必要だと思ふ。支庁が設けられてから一五〇年近く、一四支庁体制がかたづけられてから約一一〇年が経ち、当時は山の峰や谷、河川で区域が分けられた。現在は、国道、道道が整備され、旧一四支庁の区域は、現在の道民生活、経済活動の実態にあわない状況です。新たな地域的エリアをつくつていく発想で、区域を見直してほしい。

**鳥越** 胆振総合振興局になつてから、一四支庁のときより活気がないような気がするんだけど。気のせいかもしれないけど、その胆振支庁というか昔の一四支庁の方が今よりは活気というか元気があつたような気がするんだよな。今は何か、札幌に集中して吸い込まれているんじゃないだろうか。権限は前よりは少なくなつたのかな。

**桜庭** 総合振興局には、支庁のときより権限が付与しているけど、日高など五支庁は振興局になり、権限に違いがある。

**鳥越** 胆振支庁のときより存在感が小さくなつた気がするんだよな。こじんまりして、おとなしくなつたような。

### 市町村と道で道民共有の目標提示

**親松** 北海道全体の活力が無くなつてきたよね。これまでの歴史や自然特性の上になつて考えると、道内の区域は四つから五つだと思ふ。六つもある

かもしれない。区域ごとに市町村が参加して、地域や北海道をどうしていくか議論する。そういう体制が必要だと思ふんです。

前知事の高橋さんには、道通産局長のときに産炭地振興の会議で幾度となく会つたけど、これという印象はなかつた。そういう人が四期も知事をやつたんだからね。そんな状態で、知事は若い人がいいと、どういう北海道にするのかを道民に提示しないまま選挙になり、鈴木知事になつた。北海道はこの先どうなるのだろうかという不安、危機感を感じる。

**桜庭** 北海道の人口は五三〇万人で、道央圏一六市町村に約二六〇万人いるので、道民の半数が札幌周辺にいる。そこで問題だと思ふのは、札幌圏への人口集中を是として政策をつくつていくことで、J Rの路線維持の問題もそうです。

発想を変えないと、展望がみえない。たとえば、北海道庁を札幌から旭川に移すとか、乱暴かもしれないけど、そういうことから議論はじめることが必要だと思ふ。それと、市町村で人口を増やすことが期待されているけど、首長にいくらハツパをかけても、そんなことできるわけがないと思ふ。

### 市民の前で党派を超えた話し合いの場を

**小川** マスコミでもよく言われるのは、自民党政権に問題はあるけど、野党は批判をするばかりで提案をしない、というのを聞いて不本意に思つ

ています。野党は批判しているだけではないけど、そうだと思われている雰囲気意外にある。これ乗り越えないとね。それにしても野党が批判しないと、誰が権力をチェックするのだろうか、と思う点もあるが。

以前、市議会議員だった頃、市議会の保守系といわゆる革新系といわれている議員同士が、市の課題などについて公開の場でお互いに討論してはどうか、と提案したことがあります。でも保守系の議員が乗ってこないのです。相互討論すると、革新系の議員に負かされると思っているのかしれません。相互討論ができていく環境ですが、なんとか工夫してできないかと思っています。

私たちもこれまで、同じような考えの人と群れて、自己満足し、慰め合い、相手陣営の批判を繰り返してきた。しかし、互いに議論することで、共通した考えがあることも分かり、政党会派を超えて課題が整理されることができて、政治に対する関心も得られる。こうした相互討論の土壌をつくっておけば、道議会でも知事に質問や意見を言っても、批判ばかりしていると見られないと思う。こうした取り組みがなければ知事野党は先細りするのではないかと。

**佐藤** ありがとうございます。そろそろ予定の時間が近づいてきました。私なりに若干まとめさせていただきますと、皆さん苦労されてきたご経験から、今後の北海道については、政治に携わる人たちが真摯に議論して、北海道をどうするかという

姿を描いていかないと展望はない、と簡単にまとめられると思います。

ただ、いまの若い世代は、右肩上がりの成長を経験したことがない。経済的成長のもとで生活したことがないのです。学生をみると、このまま下がらなければいい、経済的発展という考えは頭のなかになく、悪くならないようにしてくれるのがいい、と思つていきます。ですから、新しいことに乗ってこないように思えます。これをどうしたら打破できるのだろうか。何かいい考えが浮かべばよいのですが。

今日は、当研究所副理事長の山崎幹根北大教授が座談会を傍聴するため同席しています。お聞きしたいことがあると思いますので、どうぞ。

### 横路・堀内知事時代の道と市町村の関係

**山崎** 私はいま、北海道の「道史編さんに関する有識者懇談会」の委員として、新しい北海道史の編さん作業をしており、政治・行政編を担当し、過去のことを調べたり、当時道政に関わった方から話を聞いています。

皆さんが市長のときは、横路知事、堀内知事のときだったと思いますが、市町村と道の関係で印象深いことなど、当時を振り返ってそれぞれお願いします。

**桜庭** 横路知事、道との意思疎通、関係はよかったですと思いますよ。私が市長選に立候補したとき、

ある人口減少地区の小学校の廃校が決まっていた。でも、地区の保護者は、市街地の学校へ通うのは遠すぎるので、廃校にしないでほしいと私に訴えてきたので、廃校せず小学校は存続すると公約し、当選しました。

とはいえ、手続きを終えて廃校が決まっていたんで、無理かなと思つたのですが、道教育庁と侃々諤々議論し、耳を傾けてくれました。横路知事が市長選挙の応援に来たからかもしれないませんが、私と知事、道とのコミニケーションはよかったですよ。一例ですが。

**親松** 赤平は産炭地なので、閉山対策や産炭地振興のことで、横路知事とは頻りに会う機会がありました。空知管内産炭地の五市一町も同様で、知事とは様々な課題を話し合いましたね。堀内知事のときもそうでした。

先ほども触れましたが、前知事の高橋さんが道通産局長のときは、産炭地の会議に来てもとくになにもありませんでした。ただ、通産省に行くときは、事前にいつ行くかを高橋局長に伝えておかないと、機嫌が悪くなったそうです。通産局は国の出先機関ですからね。

### 新千歳空港をめぐる

**鳥越** 横路さん、堀さんのときは、新千歳空港の滑走路延長、早朝深夜便など、道から苫小牧市に次々に要請がありましたからね。北海道のため

になると納得できなければ、市民に説明できませんから、知事・道とは随分話し合いをしました。

当初、私は反対していたのですが、北海道のために一生懸命やると知事が言ったので、合意しました。

その後、国際貨物便が増え、深夜早朝便は六枠まで増便になりました。横路、堀知事の際の取り組みが足場になって、その後も便数が増えた。

最初に突破口を開くのは大変なことで、北海道のために道民を説得して取り組んできたけど、高橋さんが知事ときはそうしなかったように思う。

**山崎** 横路さんのときの千歳空港の二四時間化、滑走路の延長は国際エアカーゴ基地構想ですね。

**鳥越** 滑走路の延長は反対でした。なぜ千歳ではなく苦小牧の方向へ滑走路を延ばすのかと質すと、住宅があるので千歳側へは延ばせないというんですよ。

いま航空路の真下になる苦小牧市の植苗地区にいつてみると、ジェットエンジンが改良されて、騒音はかなり低減しているけれども、市への財政的なメリットはほとんどないからね。

**佐藤** 空港ターミナルが苦小牧にないですからね。

**鳥越** そうなんです。空港ターミナルの固定資産税がない。私が市長のときに、航空路真下の住民を説得するために、国際線ターミナルがいずれ増設されるから、そのときは苦小牧側に建てるよう努力すると一筆入れたんだけど、高橋知事が誕

生した途端にその合意書は破棄されました。

**山崎** 以前、堀さんから話を聞いたとき、新千歳空港駅から苦小牧方面へ鉄道を延ばすため相当努力しましたが、運輸省を説得しきれず、ギリギリのところできなかつたと述懐されています。滑走路の延長か、鉄道の延長か、どちらかを優先せざるを得なかつたと仰っていました。

**鳥越** 国際エアカーゴ基地が国の政策だったから進展していたかも知れないけど、横路道政の政策だったから、国が承れないとすすまないし、説得するのは大変だとおもう。最近また、新千歳空港から苦小牧への鉄道の延伸が検討されているようだね。

**佐藤** 小川さんどうですか。

**小川** 私が市長になったのは一九九五年で、堀さんが知事になったときと同じで、横路知事のときは市議会議員でした。道央圏高規格道路(千歳・当別)期成会の会長をしたいたので、高橋知事に陳情にいったことはありますが、高橋知事になってからでしたから、市長と知事との間でほとんど話し合うことはなかつたですね。

**親松** 先ほどの話を補足します。道内市町村のまちづくりをまとめあげると、北海道全体のまちづくりになり、道内を五つか六つほどの区域・圏域に分けて取り組む。市町村も自治体連携や広域性を考えなければならぬ。そして道が呼び掛けて場を設け、市町村の首長・職員の参加、議会議員の参加、道民が参加して、自分のまちの将来、

北海道の将来について議論することが必要です。とくに、女性、若い人たちが多く参加することによって、展望が見えると思う。さらに自治体職員はしっかり勉強してほしい。

**佐藤** ありがとうございます。いま市町村では職員がどんどん減り、一方では国から新しい仕事を次々に押しつけられ、余裕がなくなっています。この状況をなんとか打破しなければならず、皆さんが言われたように自治労の役割が大きい。また

地方自治研究所への期待もひしひしと感じました。  
**小川** 最後に一言いわせてください。自治労と北教組の二つ、自治と教育という公務員の労働組合の頑張りがなんとも重要です。そして教育は大きな問題を抱えています。この二つの組合が、政治的、政策的に連携していくことが大事です。

**佐藤** 単に公務労働を守るというだけでなく、まじめに働いている人たちの暮らしが悪くならないようにするためにも、力のある労働組合の協力と連携が必要だということですね。自治体の政策を練り込んで推進していく上でもこれら労組に頑張ってもらいたいと思います。

長時間にわたり、貴重なお話しをうかがうことができました。ありがとうございます。予定の時間を超えましたので、これで座談会を終えます。

(本稿は、二〇一九年九月一七日に開催した座談会をまとめたものです。文責・編集部)